福岡水技セ研報　第12号　2002年3月
Bull. Fukuoka. Fisheries. Mar. Technol. Res. Cent. No12. March 2002

有明海におけるガザミの流通実態

金澤　孝弘・林　宗徳
（有明海研究所）

The Circulation Actual Conditions of the Swimming Crab（*Portunus trituberculatus*）in the Ariake Sea

Takahiro KANAZAWA , Munenori HAYASHI [*1]
（Ariakekai Laboratory）

福岡県有明海区の筑後地方ではガザミ *Portunus trituberculatus* をガネ又はマガネと呼び，一般的な食材として広く供されている。また，ガザミのブランド化で先行している佐賀県の竹崎ガニは高級食材として珍重されており，ガザミは有明海を代表する重要甲殻類の一つとなっている。

本県ではこれまで，ガザミの中間育成や放流効果についての報告[1-4]は行われているものの，ガザミの流通に関する報告は無い。

そこで，本報では有明海産ガザミの価格形成や出荷方法などの流通状況を把握し，ガザミの流通戦略に繋がる指針を検討した。

方　法

1.統計調査

ガザミの統計処理は有明海を囲む沿岸４県，特に湾奥部を漁場とする福岡県や佐賀県東部および熊本県北部のガザミが多く出荷される筑後中部魚市場の資料を用いた。対象は2000年７月から'01年８月までの日報とし，１日毎の取扱箱数および平均箱単価を月毎に上旬と下旬の２回に分けて集計した。

2.市場調査

筑後中部魚市場において，'00年７月から'01年８月の13ヶ月間，原則として月１回の市場調査を行った。調査項目は出荷形態や箱数，入数のほか，ガザミの甲羅硬度である個体形質や大きさである全甲幅について調べた。ただし，入数が計測できなかった箱は年間の平均入数を用いて換算した。個体形質は箱毎にガザミの甲羅を触診し，①強く押して凹まない通常個体のものを「硬(カタ)」,②強く押して凹む軟甲個体のものを「寸(チョイ)または寸ヤワ」,③軟甲個体で脱皮後間もないものを「ヤワまたはヤワラ」の３種類に区分した。また，全甲幅は箱毎に平均的な大きさのガザミを数尾測定し，平均をとってサイズ毎に分類できるようにした。

併せて，競売を聴取し，卸値と購入した流通（仲卸）業者を把握した。

3.流通（仲卸）業者聞取調査

筑後中部魚市場において'01年８月，年間を通してガザミを購入する流通（仲卸）業者の数社に対して，仕入れのポイントなどの購買意識や販売に関する聞取調査を実施した。

結　果

1.統計調査

取扱箱数ならびに平均箱単価の調査結果を図１に示した。

取扱総数は18,242箱で，箱数は５～11月に多く，12～４月は少ない傾向を示し，最高は９月に1,783箱，最低は２月に26箱，平均箱数は652箱であった。

ガザミの１箱当たり平均価格は春期から夏期は高く，秋期から冬期は低い傾向を示し，最高は３月に10,753円，最低は１月の2,338円，全体での１箱当たり平均価格は6,238円であった。

2.市場調査

出荷方法は総て「活き」であり，有明海産の「木箱(海水無し)」と周防灘産の「発泡スチロール箱（海水入り)」に大別された。有明海産ガザミの出荷状況を図２

*1　現水産海洋技術センター研究部

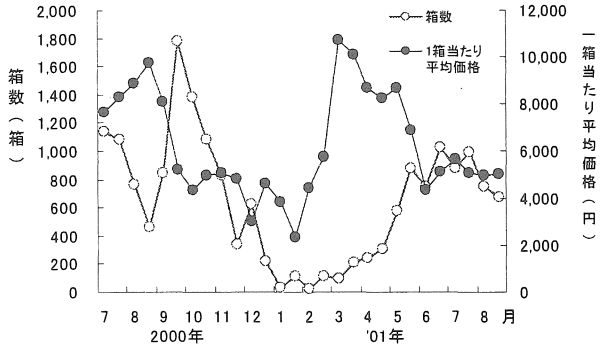

図１　筑後中部魚市場におけるガザミ流通状況

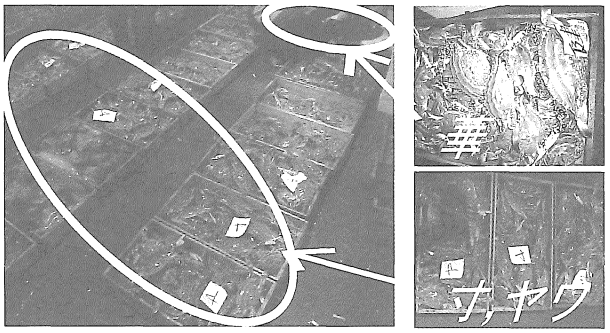

図２　有明海産ガザミの出荷状況

に示した。県内漁業者は選別方法に個人差があるものの，多数ある箱の先頭に「華」と称する通常個体の大型硬を配置し，次いで中型硬や小型硬，軟甲個体の寸，ヤワの順に並べ，個体形質毎に銘柄を明記し選別・区分していたが，その他の表示，例えば入数や重量などの規格表示をしている漁業者は調査期間を通して見られなかった。一方，他県の漁業者は県内漁業者と同じく個体形質毎の選別を行っているものの，その銘柄の明記までは行っていなかった。

なお，周防灘産ガザミの出荷は民間業者が年間を通じて，小型ガザミを中心に１箱10尾前後の箱を作り，随時出荷する形態を採用していた。

有明海産ガザミの競売聴取結果を表１に示した。調査した箱数は月間0～79箱の範囲で，合計493箱であった。

箱数は各個体形質ともに春期から夏期にかけてと秋期に増加する傾向が見られたが，１～２月の冬期にはガザミの出荷は確認できなかった。

１箱当たり平均価格は個体形質によって価格が異なり，硬，寸，ヤワの順で常に高く，硬は約12,000円，寸は約6,000円，ヤワは約1,500円であった。

１尾当たり平均価格は'00年12月末の硬が1,875円と最高値で，'01年６月のヤワが76円と最低値を示した。１箱当たり平均価格と同様に，１尾当たり平均価格も個体形質で価格が異なり，何れの調査においても硬，寸，ヤワの順で常に高く，硬は約800円，寸は約500円，ヤワは約150円であった。

サイズ別による個体形質毎の１尾当たり平均価格を表２に示した。硬は寸やヤワの軟甲個体に比べ全甲幅の範囲も広く，価格も高かった。また，軟甲個体は11～５月まで出荷があまりみられなかった。個体形質別に最高価格と最低価格の差をみると，硬が6.1倍で最も大きく，次いで寸の5.6倍，ヤワの2.9倍の順であった。総ての個体形質で出荷サイズが大きいほど価格が高い傾向が見

表１　競売聴取による有明海産ガザミの価格推移

年月日	箱数 硬	寸	ヤワ	総計	1箱当たり平均価格（円） 硬	寸	ヤワ	1尾当たり平均価格（円） 硬	寸	ヤワ
2000年7月28日	45	20	14	79	10,902	8,855	2,323	717	602	223
8月11日	31	13	8	52	14,146	10,160	2,120	991	652	200
8月17日	3	1		4	4,267	3,500		788	700	
8月29日	25	4	2	31	18,271	10,375	1,400	1,223	714	144
9月8日	35	6	4	45	11,294	6,333	1,575	788	369	198
10月20日	43	15	5	63	7,595	4,675	1,650	333	202	90
11月22日	4			4	17,250			800		
12月26日	1	1		2	30,000	10,000		1,875	1,111	
2001年1月30日										
2月28日										
3月27日	13			13	15,654			819		
4月24日	15			15	10,200			500		
5月11日	30			30	11,287			591		
5月25日	48			48	10,349			695		
6月7日	25	3	3	31	5,525	2,000	633	305	200	76
6月27日	11	3	3	17	7,436	3,033	1,633	471	235	116
7月5日	21	10	4	35	8,050	4,790	900	556	323	86
8月31日	11	9	4	24	12,227	3,989	1,575	824	526	211
合計	361	85	47	493	194,454	67,711	13,810	12,275	5,634	1,343
平均	23	8	5	31	12,153	6,156	1,534	767	512	149

られた。

3.流通（仲卸）業者聞取調査

筑後中部魚市場においてガザミを購入する流通（仲卸）業者に対して聞取調査を行った（図３）。

ガザミの仕入先については，筑後中部魚市場と回答した業者が約９割を占めた。

ガザミの仕入頻度は春期が４割，夏期および冬期が約３割，秋期が最も少なかった。

ガザミを仕入れる際の重点項目の問いについては価格，量，大きさの順で経済性を重視する傾向にあったが，項目による差は少なく拮抗する結果となった。

販売方法では１尾丸売りが４割以上を占めた。

販売先は自家販売が約８割と最も多く，次いで筑後地方同業者，佐賀県同業者の順であった。

販売価格についてはガザミの個体形質に関係なく，卸値の１～３割増額で販売するとの回答が平均的であった。

最終消費地は地元である筑後地方で消費されると考える業者が６割を超え，佐賀県竹崎で消費されると考える業者は２割にも満たなかった。

表2　サイズ別による個体形質毎の1尾当たり平均価格

	硬									寸					ヤワ				
全甲幅(mm)	120	130	140	150	160	170	180	190	200	140	150	160	170	180	120	150	160	170	180
2000年7月28日	165	222	659	657	446	736	959	750	-	448	333	-	-	670	-	-	138	-	206
8月 11日	-	-	292	-	682	-	1,333	-	-	-	-	556	-	591	-	-	-	-	147
8月 17日	-	-	-	-	582	-	1,200	-	-	-	-	-	-	700	-	-	-	-	-
8月 29日	-	-	514	1,583	313	1,089	1,525	-	1,136	-	-	1,000	1,067	-	-	164	125	-	-
9月 8日	-	-	-	393	539	778	742	267	1,838	-	-	392	-	357	-	-	208	90	286
10月 20日	-	-	-	247	289	384	376	250	-	-	-	184	250	200	100	-	-	80	-
11月 22日	-	-	-	550	-	650	1,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12月 26日	-	-	-	-	-	-	-	-	1,875	-	-	-	-	1,111	-	-	-	-	-
2001年1月30日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2月 28日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3月 27日	-	-	434	-	521	783	778	1,250	1,250	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4月 24日	-	412	-	598	-	750	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月 11日	-	-	353	-	580	-	813	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月 25日	-	613	398	550	660	806	1,063	-	1,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月 7日	-	150	271	244	334	348	383	-	-	-	-	150	-	-	-	-	108	60	-
6月 27日	-	-	371	543	643	88	-	-	-	-	-	-	156	-	-	-	-	-	133
7月 5日	-	214	276	-	596	-	881	-	-	188	-	388	225	327	-	-	28	115	100
8月 31日	-	-	546	-	791	-	1,010	-	-	200	-	655	-	554	-	-	250	-	198
平均	165	322	411	596	537	641	928	629	1,420	278	333	475	424	564	100	164	143	86	178

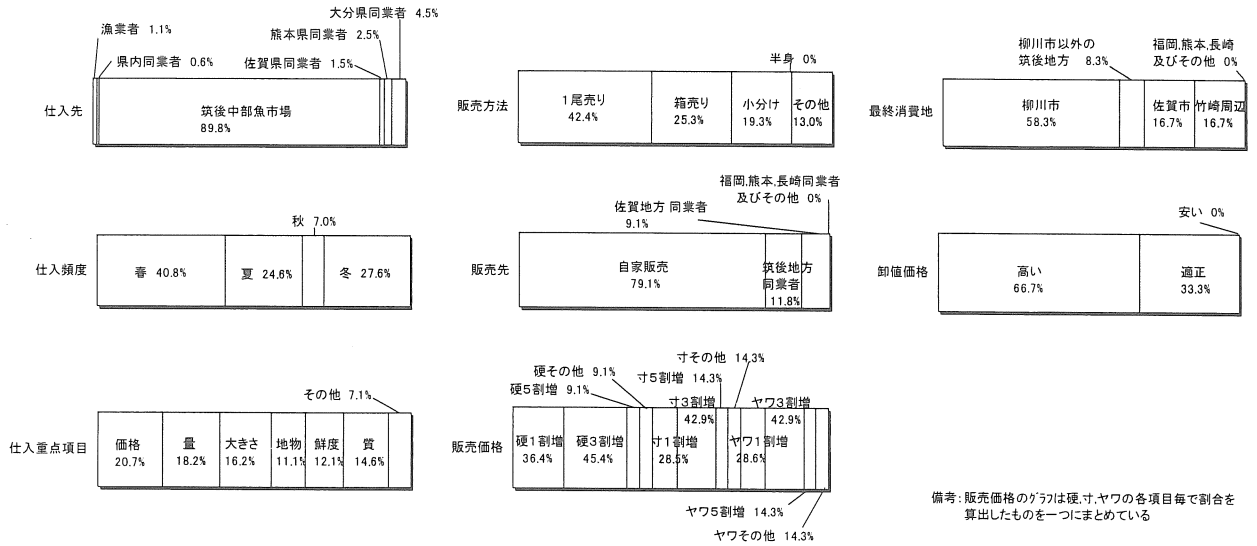

図3　流通（仲卸）業者聞取調査

ガザミの卸値については約7割が高いと回答し，安いと回答した業者は皆無であった。

考　察

調査期間が13ヶ月のため，継続的な調査を今後も実施していく必要があるが，流通状況に関して一定の成果が得られた。

取扱箱数と1箱当たり平均価格は逆相関があるものの，入荷数が減少する10～2月に価格の低下がみられた。これはガザミの身入りが悪くなる秋期の購入を差し控える流通（仲卸）業者が多いことやガザミ漁業者の多くが別の漁業種類へと移行するため有明海産ガザミが減少し，まうことなどの影響が考えられた。

出荷方法についてみると筑後中部魚市場の卸値は他の魚市場に比べ高いこと，例えば福岡県行橋市魚市場の卸値は2,200円/kg前後[5]で現在も推移しており，比較すると1.3倍ほど筑後中部魚市場の卸値が高い。従って現在実施している個体形質毎の銘柄区分を今後も継続していくとともに，漁業者自身が客観的に単価を把握し，流通改革を検討するためにも，尾数や重量による箱の規格化を奨めていく必要がある。

表３　漁期毎の個体形質別1尾当たり平均価格

	硬			寸			ヤワ		
漁期	小	中	大	小	中	大	小	中	大
初漁	423	663	1,093	-	-	-	-	-	-
中漁	360	614	1,004	278	503	568	-	124	157
終漁	-	479	907	-	275	556	100	126	286
平均	392	585	1,001	278	389	562	100	125	221

出荷先別の出荷量は取扱箱数，個体形質別箱数，出荷先の割合の調査結果から，ガザミ平均重量を用いて換算すると，柳川市周辺域を含む地元消費に年間約30トン(12,040箱)，佐賀へ年間約８トン(3,101箱)，竹崎へは年間約８トン(3,101箱)が振り向けられていると推定された。このように筑後中部魚市場のガザミの約７割は地元消費に廻っており，漁業者は地元出荷を中心に出荷方法を検討していくことが重要であろう。

個体形質別の１尾当たり平均価格から全甲幅150mm未満を小型，150～180mmを中型，180mm以上を大型として整理するとともに，１～４月までを初漁期，５～８月を中漁期，９～12月を終漁期とガザミ漁期を３期に区分し，集計した（表３）。全漁期におけるヤワの価格が他と比べ著しく低い。また，硬や寸はガザミの大きさで価格に明かな差がみられる。こうしたことからガザミの流通戦略を建てるためには，漁場内での資源管理と流通改革の２本立ての管理対応策が求められる。

まず，漁場内における資源管理の見地から，ヤワなどの軟甲個体は積極的に再放流していくことが重要である。有明海のガザミについてはクルマエビのように干潟域で着底・成長し，成熟と共に深所へ移動する生態[6]と類似し，有明海全域を利用して生育すると考えられていること[4]などから，このような取り組みは漁場を共有する総ての漁業者，つまり有明４県の共同調整を図っていく必要があろう。

次に流通改革の見地から，硬や寸の中型および大型ガザミについては前述したとおり，引き続き卸値が高い筑後中部魚市場へ継続的に出荷することが望ましい。一方，硬や寸の小型ガザミについては，①蓄養などによる出荷調整，②箱の規格化による出荷改善，③他地区への出荷や直販などを含めた新規販売ルートの開拓，④加工やブランド化による付加価値向上などの単価向上対策を図っていく必要があると考えられた。

要　約

１）筑後中部魚市場に出荷されるガザミの価格形成や流通状況を把握するため，統計調査，市場調査，流通（仲卸）業者聞取調査を行った。

２）有明海産ガザミは「活きガネ」で出荷し，個体形質別に「硬」，「寸」，「ヤワ」の３銘柄に選別されていた。これ以外に区分の別は無く，入数や重量などの規格化を検討する必要がある。

３）柳川市周辺を含む地元での消費は約７割で年間約30トン(12,040箱)，佐賀県竹崎への出荷は２割以下で年間約８トン(3,101箱)と推定した。

４）年間を通してヤワの価格が他と比べ著しく低い。また，総ての個体形質で出荷サイズが大きいほど価格が高い傾向がみられた。

５）漁場内における資源管理の見地から，ヤワなどの軟甲個体を積極的に再放流することが望ましい。また，流通改革の見地から，硬や寸の中型および大型ガザミについては引き続き筑後中部魚市場へ継続的に出荷し，硬や寸の小型ガザミについては，各種の単価向上対策を図っていく必要があると考えられた。

謝　辞

市場調査の便宜ならびに資料提供について御協力いただいた筑後中部魚市場の三村忠司氏，宮崎嘉治氏，平川幸一氏，吉田鉄也氏に感謝します。また，流通（仲卸）業者聞取調査に御協力いただいた関係各位に感謝します。

文　献

１）大津航・小河淳一・入江章・曽根元徳・相島昇・富重信一：ガザミ人工種苗放流技術の開発について－Ⅰ．福岡県有明水試事報，昭和55年度，105-110,(1982).

２）大津航・小河淳一・入江章・曽根元徳・相島昇・富重信一：ガザミ人工種苗放流技術の開発について－Ⅱ．福岡県有明水試事報，昭和56年度，41-63,(1983).

３）大津航・小河淳一・入江章・曽根元徳・相島昇・富重信一：ガザミ人工種苗放流技術の開発について－Ⅲ．福岡県有明水試事報，昭和57年度，37-61,(1984).

４）相島昇・富重信一・入江章・曽根元徳・小河淳一・大津航・安部昇：ガザミ人工種苗放流技術の開発について－Ⅳ．福岡県有明水試事報，昭和58年度，37-60,(1985).

5）小林信・濱田豊市・徳田真孝：資源管理型漁業推進総合対策事業．福岡県水海技セ事業報告，平成７年度，339-345,(1996).

6）新潟県・富山県・京都府・佐賀県・長崎県・熊本県・大阪府・福岡県：平成４～８年度（総括）重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査報告書（エビグループ）,有１-有24,(1999).